

# ☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和元年6月28日 VOL. 108

## 行方不明になる高齢者の早期保護にむけた安全・安心のために



地域包括ケア推進課

市認知症地域支援推進員

藤枝警察署生活安全課

藤枝消防署警防担当

市内7か所のあんすこ

見守りネット登録状況 6月18日現在

延人数	実人数	性別
245人 死亡転居含	179人	男 65人 女 114人

検索依頼がでると

- 警察・消防が出動して捜索している
- 見守りネット登録者は、**事前登録情報が役に立つ**
- 同報無線による**市民からの情報提供が早期保護の有力な手段**になっている

令和元年6月18日（火）に「認知症見守りネットワーク事業検討会」（以下「検討会」）を開催しました。

本市では平成27年より、**行方不明になる可能性のある人を事前に登録し、藤枝消防署や藤枝警察署と情報を共有し、行方不明になったときに登録情報を利用して早期発見・保護するための「認知症見守りネットワーク」**（以下「見守りネット」）事業を実施しています。

今回、見守りネット事業開始から4年が経過し、登録者が240人を超える状況の中で、早期保護と早期に身元引受人への引き渡しにつなげることを目的に、現状確認と課題検討を行いました。

今後も共有した課題に対し、関係機関と協議・調整しながら高齢者の安全と安心のために対応していきます。

藤枝警察署からの提供された「保護に関する情報」等

- 平成30年 65歳以上の高齢者の保護件数 **約110件（概数）**内、約3割が見守りネット登録者であった。登録者は事前情報をもとに本人の確認や、家族への連絡・引き渡しが無事にできた。約7割の未登録者は、保護したあとの個人特定が課題になっている。とくに名前の言えない高齢者の特定に苦慮している
- 検索届け出による**同報無線依頼件数 41件（実際の放送数とは異なる）**

対応時期	検討会で確認した課題等	検討会での対応案
即対応	保護履歴がある人に対し、確実に見守りネット登録を推進する	①警察：保護した全事例を市に情報提供する ②市：全事例に対し、ケアマネやあんすこと調整し、見守りネットへの登録を勧奨する ③市：情報提供事例の登録状況の確認を行う
即対応	警察・消防・市・あんすこ間の緊急連絡ルールを整理する	市が中心となり、特に夜間・休日の緊急連絡先の確認および情報提供ルールを調整し、情報共有を行う
調整	見守りネット登録の状態が共有できるよう、アセスメントの共通認識が必要である	介護支援研究会と協議し、「（例）日常生活自立度がⅡaになったら見守りネット登録とGPSの利用を検討しましょう」などの共通目安をつくる
実証	行方不明者を早期に保護するため、外見からわかる「靴に貼るシール等」の導入を行う	シールの素材や耐久性、および本人・家族の同意を得られるデザインなどを研究するため、実証実験を行い事業化していく
実証	保護した人の本人確認のため「名前入り靴の中敷き」の導入を行う	中敷きの素材やデザイン、耐久性などを研究するため、実証実験を行い事業化していく